



# Bリーグドラフト2026完全網羅：戦略的展望と全候補者徹底分析レポート



せと@鹿児島レブナイズ熱烈応援+ゲーム攻略情報や先行情報などなど  
2025年12月17日 18:28

90人もいるなら、Oneも参加していいじゃん と思ってしまうね・・・



サラリー払えないネタをつくって、実際に見たら、結構ちゃんと値段下がってて適正っぽい価格になってた。

ただ、それ以外にも条件はあるし、クリア出来てないから、そもそも参加は厳しいよね。

## 【公式】B.LEAGUE DRAFTについて | B.LEAGUE DRAFT 2026 | B.LEAGUE (Bリーグ) 公式サイト

B.LEAGUE初のドラフト会議『B.LEAGUE DRAFT 2026』が2026年1月29日(木)にKanadevia

[www.bleague.jp](http://www.bleague.jp)

一応AIで探せるだけの情報をさがして予想をたてさせたけど、本当にあってる???ってのはあるので、そこは注意だね。

またNCAAのことは考えてなかったなので、別で作ります。ただそんなに居ないので、大半は下記予想で外れてはないと思ってる。

# 1. 序論：B.LEAGUE PREMIER創設とドラフト制度の衝撃

2026年は、日本のプロバスケットボール界にとって分水嶺となる年である。Bリーグの構造改革である「B.革新」の中核をなす「B.LEAGUE PREMIER (以下、Bプレミア)」の誕生は、これまでの昇降格制度に依存したリーグ運営から、事業規模とアリーナ基準、そしてガバナンスを重視した新たなフェーズへの移行を意味する。この変革の中で最も注目すべき競技面での制度変更が、**新人選手獲得における「ドラフト制度」の導入**である。

本レポートでは、2026年1月に開催予定の記念すべき第1回Bリーグドラフト (B.LEAGUE DRAFT 2026) に向けた包括的な分析を行う。提供された95名以上の候補者リストに基づき、有力選手のスカウティングレポート、ポジション別の市場価値分析、そして全エントリー選手の詳細データを網羅する。アナリストの視点から、単なる選手名鑑に留まらず、各選手がBプレミアの戦術トレンドにどのような影響を与えうるか、その「納得感」のある予測を展開する。

## 1.1. ドラフト制度の特異性と戦略的含意

Bリーグドラフト2026および2027の最大の特徴は、指名順位決定における「完全抽選方式 (フラット・ロタリー)」の採用にある 1。通常、ドラフト制度は前シーズンの下位チームに上位指名権を与えることで戦力均衡を図る「ウェーバー制」が基本である。しかし、Bプレミア初年度においては前年度順位という概念が新リーグ構造にそのまま適用できないため、参加全クラブに等しく1位指名のチャンスが与えられることとなった。

この「フラットな確率」は、各クラブの編成戦略に劇的な影響を与える。

- 「BPA (Best Player Available)」の絶対視: 順位操作（タンキング）が不可能であるため、特定のポジションの穴埋めよりも、その順位で獲得できる「最も価値のある選手」を指名する戦略が合理的となる。
- スカウティングの重要性: 全チームが上位指名の可能性を持つため、下位指名での「隠し玉（スリパー）」発掘能力が、数年後のチーム力を左右する決定的な差となる。

## 1.2. 2026年ドラフトクラスの全体像：「ガードの豊作」と「サイズの希少性」

本ドラフトクラスの最大の特徴は、ポイントガード（PG）層の歴史的な厚みと、200cm級の日本人ビッグマンの枯渇という極端なコントラストにある。

関東大学リーグのスタッツやインカレの結果<sup>34</sup>を分析すると、岩下准平（筑波大）や岩屋頼（早稲田大）を筆頭に、即戦力級のガードが多数リストアップされている。一方で、純粋なセンター（C）ポジションの候補者は皆無に等しく、190cm台前半の選手がインサイドを担わざるを得ない現状が浮き彫りになっている。この需給バランスの歪みこそが、各球団の指名戦略を決定づける要因となるだろう。

## 2. 上位指名予想：フランチャイズを変える「ビッグボード」

ここでは、将来のスター候補となる「ティア1（最上位層）」および即戦力となる「ティア2」の選手を、詳細なデータとプレースタイル分析に基づき評価する。

### 2.1. ティア1：ロッタリー指名確実なエリート候補

ドラフト1巡目、特に競合必至と予想されるトッププロスペクトたちである。彼らは個の能力で局面を打開できるだけでなく、チームの文化を変えるリーダーシップや身体的ポテンシャルを有している。

#### 岩下 准平 (Junpei Iwashita)

- 所属: 筑波大学 4年 | ポジション: PG
- 身体: 180cm / 82kg | 生年月日: 2003/4/2
- 評価:

1. 今ドラフトにおける「司令塔」の最高峰。福岡大学附属大濠高校時代からの実績に加え、筑波大学でのキャプテンシーが高く評価されている 5。彼の最大の武器は、ゲームコントロール能力と得点力の高次元での融合である。ピックアンドロール (P&R) からの展開力に優れ、自ら 3ポイントシュート (3P) を沈める決定力も持つ。
- 根拠となるデータ:
    1. 関東大学リーグ戦では43本の3Pを成功させ、ランキング7位に入った実績がある 6。特に日本大学戦では5本の3Pを含む21得点を記録し、爆発力を証明した 7。また、「状況把握力」や「リーダーシップ」という定性的な評価も非常に高く、BプレミアのスターティングPGとして即座に計算できる稀有な人材である。

## ジャンバルボ 海斗 (Kaito Gianbarbo)

- 所属: 近畿大学 4年 | ポジション: PF/C
- 身体: 192-193cm / 90kg | 生年月日: 2003/9/29
- 評価:
  1. 「関西のモンスター」と称される圧倒的なフィジカルと得点能力を持つ。193cmというサイズはB1のインサイドとしては小柄だが、その不足を補って余りある身体能力とスキルセットを有する。インカレで見たパフォーマンスは圧巻であり、得点能力の高さは今ドラフト随一と言える。
- 根拠となるデータ:
  1. インカレにおいて、4試合で平均25.8得点、12.5リバウンドを記録 3。さらに2ポイントシュート成功率は63.6%という高確率を誇り、ペイントエリア内での決定力が際立っている。ドラフト候補選手の中で「最もスタッツを残した選手」の一人であり、プロのフィジカルにも即座に適応可能と推測される。

## 福田 健人 (Kento Fukuda)

- 所属: 筑波大学 4年 | ポジション: F
- 身体: 194cm / 92kg | 生年月日: 2003/8/6
- 評価:
  1. 現代バスケットボールが求める「ストレッチ4」の理想形。194cmのサイズと強靱なフィジカルを持ちながら、高精度の3Pシュートを武器とするサウスパーである 8。日本人ビッグマンの枯渇するリーグにおいて、スペーシングを提供できる彼の存在価値は計り知れない。
- 根拠となるデータ:
  1. 中部大第一高校時代から注目された大型シューターであり、大学でもそのスタイルを確立。「力強いフィジカルと正確無比な3P」という評価 8 は、外国籍選手とマッチアップしながらオフェンスのスペースを広げる役割に最適である。

## 新井 楽人 (Gakuto Arai)

- **所属:** 日本大学 4年 | **ポジション:** SF/SG
- **身体:** 190cm / 90kg | **生年月日:** 2004/3/11
- **評価:**
  1. 190cm、90kgという恵まれた体格を持ちながら、ハンドラーとしてのスキルを有する大型ウィング。ドライブからのペイントタッチや得点力が魅力であり、フィジカルを活かしたディフェンスも評価されている。
- **根拠となるデータ:**
  1. 関東大学リーグ1部において、平均15.5得点を記録し得点ランキング5位に入賞、優秀選手賞も獲得した10。インカレ優勝メンバーでもあり、勝者のメンタリティを持つ。日本人が手薄になりがちなウィングポジションにおいて、サイズとスキルを兼ね備えた「素材」としてトップクラスの評価を受ける。

## ボンゴ・ジロン (Jiron Bongo)

- **所属:** 国士舘大学 4年 | **ポジション:** SF/PF
- **身体:** 193cm / 92kg | **生年月日:** 2003/7/6
- **評価:**
  1. 国士舘大学の1部昇格の立役者。高い身体能力とリバウンド力、そしてウィングスパンを活かしたディフェンスが特徴。オフェンス面でも成長著しく、内外バランス良く得点できる。
- **根拠となるデータ:**
  1. インカレでは3試合で平均15.0得点、10.0リバウンドのダブルダブルを記録3。関東リーグ入替戦（対筑波大）でも重要な働きを見せ、勝負所での強さを証明した。複数のポジションを守れる汎用性は、スイッチディフェンスを多用するBリーグのトレンドに合致する。

## 2.2. ティア2：1巡目指名・即戦力候補

トップ層に次ぐ実力を持ち、特定のスキルにおいてプロレベルに達している選手たちである。

- 石川 響太郎 (Kyotaro Ishikawa | 日本体育大学):
  1. 「大学No.1シューター」の呼び声高いSG。三遠ネオフェニックスの練習に参加経験があり6、プロの強度を肌で知っている。クイックリリースから放たれる3Pは脅威であり、即座にローテーション入りができるスペシャリスト。
- 岩屋 頼 (Rai Iwaya | 早稲田大学):
  1. 早稲田大学を57年ぶりのリーグ優勝に導いた司令塔11。岩下とは対照的に、ゲームを落ち着かせ、周囲を活かす「安定感」が魅力。小柄ながらフィジカルも強く、クラッチタイムでの勝負強さも兼ね備える。
- 金友 蓮 (Ren Kanetomo | 大阪産業大学):
  1. 192cmのSF。川崎ブレイブサンダースの練習参加経験を持つ12。インカレでは平均14.3得点、9.3リバウンドを記録3。走れる大型ウィングとして、トランジションオフェンスを志向するチームにフィットする。

- 田中 流嘉州 (Lucas Tanaka | 大東文化大学):

- 194cmのPF。「3&D」としての資質が高く、相手エースを封じるフェイスガードなどのディフェンスに定評がある13。オフェンスではコーナー待機からの3Pやリバウンド参加で貢献するロールプレイヤータイプ。

- 新井 翔太 (Shota Arai | 青山学院大学):

- 爆発力のあるスコアリングガード。インカレでは2試合ながら平均28.0得点、8.5アシストという驚異的なスタッツを残した3。オフェンスの創造性とパスセンスはドラフト候補中でも随一。

## 3. ポジション別詳細分析と市場動向

ここでは、リストにある全選手をポジション別に分類し、それぞれの市場価値とトレンドを分析する。

### 3.1. ポイントガード (PG) : 供給過多の「買い手市場」

本ドラフトの最大の特徴はPGの層の厚さである。リストの約3割がPGで占められており、各チームは自チームのスタイル（得点型か、コントロール型か）に合わせて選り取り見取りの状態にある。

#### 主な候補者リスト (PG)

氏名	所属	身長	特徴・評価
岩下 准平	筑波大	180cm	世代No.1ガード、得点・IQ・統率力の全てが高水準
岩屋 穂	早稲田大	183cm	安定感抜群の司令塔、リーグ優勝キャプテン
塚本 智裕	大東文化大	179cm	元現球特別指定、冷静なゲームメイク
月岡 照	日本体育大	174cm	アシスト王経験あり、広い視野とパスセンス
武富 楓太	東海大九州	176cm	九州リーグMVP&アシスト王、得点力もあるPG
新井 翔太	青山学院大	172cm	圧倒的なオフェンスセンス、高アシスト率
小川 大新	青森VGNUS	175cm	元青森ワッツ練習生、シュート力と勝負強さ
赤崎 瑛真	(無所属)	169cm	ブルアップ3P、ハードなディフェンス
下地 秀一郎	日本大	174cm	スピードとハンドリング、シックスマン適正
山下 力也	大阪学院大	177cm	関西の星、攻撃的なゲームメイク
南口 章	大阪体育大	185cm	185cmの大型PG、全ポジションこなす万能性
平岡 善次朗	日本大	174cm	落ち着いたメイク、高確率3P
佐古 竜誠	白鷲大	178cm	フィジカルなディフェンス、ハードワーク

分析:

岩下、岩屋の「2強」に加え、地方リーグで圧倒的な数字を残した武富（九州）や南口（関西・2部から昇格の立役者）といった隠れた逸材が存在する。特に南口は185cmとサイズがあり、大型化するBリーグのPG事情にマッチする可能性が高い。

## 3.2. シューティングガード / スモールフォワード (SG/SF) : サイズへの渴望

世界的な潮流と同様、Bリーグでもウィングポジションには「3Pシュート」と「ディフェンス（サイズ）」の両立が求められている。しかし、190cmを超えてこの役割をこなせる選手は極めて少ない。

### 主な候補者リスト (SG/SF)

氏名	所属	身長	特徴・評価
新井 楽人	日本大	190cm	希少な大型ハンドラー、得点ワンキング上位
石川 晋太郎	日本体育大	180cm	エリートシューター、プロ練習参加経験
金友 蓮	大阪産業大	192cm	走れる大型ウィング、インカレで活躍
泉 登翔	日本大	190cm	190cmのシューター、3Pと熱いプレー
松野 遥弥	専修大甲	190cm	高い身体能力、ダンクもこなすスラッシャー
針籠 大知	明治大	186cm	強靱なフィジカル、クラッチタイムの得点力
菊地 峻平	仙台大	177cm	東北リーグ得点王&3P王、キャプテン
堀田 崇秀	早稲田大	184cm	爆発力のあるレフティシューター
江口 椋平	星槎道都大	182cm	北海道の得点源、多彩なスコアリング
オドゲレル トルガ	青山学院大	182cm	フィジカルなドライブとディフェンス
寺塚 優羽	(無所属)	Unk	ドラフト志望届提出第1号、元山梨学院大
中村 洸輝	天理大	182cm	関西リーグMVP、高確率3P

分析:

新井楽人、金友蓮、松野遥弥の「190cmトリオ」は、サイズ不足に悩むチームにとって垂涎の的である。彼らはディフェンスで外国籍選手とのスイッチに対応できるポテンシャルがあり、戦術的な柔軟性をもたらす。一方、石川や菊地のような「シューター枠」は、スペーシングを重視するチーム（例：宇都宮、琉球など）のシステムに即戦力としてフィットするだろう。

## 3.3. パワーフォワード / センター (PF/C) : ニッチな需要と「ストレッチ」の価値

純粋なセンターが不在の中、このポジションの選手には「ストレッチ能力（外角シュート）」か「圧倒的な泥臭さ（リバウンド・守備）」のどちらかが求められる。

### 主な候補者リスト (PF/C)

氏名	所属	身長	特徴・評価
ジャンバルズ 海斗	近畿大	192cm	得点力・リバウンドカにもドラフト最高峰
堀田 隼人	筑波大	194cm	194cmの左利きシューター、現代理型PF
田中 流高州	大東文化大	194cm	守備職人、エースキラー、3Pも打てる
島崎 輝	中央大	195cm	候補者中最長身クラス、高確率シュート
岩塚 武志	東海大	189cm	「転れるナイスガイ」、インサイドの要、重鎮級
早田 流星	日本体育大	185cm	フィジカルディフェンス、リバウンド貢献
中村 謙斗	国士館大	190cm	1部昇格貢献、リバウンドと3P

分析:

ジャンバルボの得点力は魅力的だが、B1レベルの外国籍ビッグマン（205cm超）相手にインサイドでどこまで通用するかは未知数だ。そのため、アウトサイドに開いてプレーできる福田や田中のような「ストレッチ4」の方が、プロレベルでは使い勝手が良いと判断される可能性がある。君座のようなアンダーサイズビッグマンは、そのフィジカルの強さで特定の役割（スクリーナー、肉弾戦要員）を見出せるかが鍵となる。

### 3.4. 異色の経歴を持つ「ワイルドカード」たち

大学バスケのメインストリーム以外からエントリーした選手たちも、独自の強みを持っている。

- **3x3出身選手:**

- **オヌ 太郎 (IKEBUKURO DROPS.EXE):** 193cmのサイズに加え、3x3で培ったフィジカルコンタクトの強さと1対1のスキルがある。ポジションレスなディフェンスが可能 5。
- **西村 月冴 (EDEN.EXE):** 宇都宮U18出身で、3x3プロチームで活動。ハーフコートゲームでの判断力やフィジカルに期待。

- **海外挑戦組:**

- **コックス 敬士 (Belmont Abbey College):** NCAA D2所属。出場時間は限られていたが、フィジカルスタンダードの高い環境での経験は貴重 31。
- **岸田 虎之介 (Pablo Laso Academy):** スペインのアカデミー出身。欧州仕込みのバスケットボールIQと基礎技術に注目が集まる。

---

## 4. 全エントリー選手 完全名鑑 (2025年12月時点)

以下は、提供されたデータおよび調査に基づき、確認された全エントリー選手を網羅したリストである。

### カテゴリー別 選手一覧

【北海道・東北・北信越・東海・関西・中国・四国・九州 地方リーグ所属】

地方リーグの「隠れた宝石」たち。インカレや選抜大会で関東勢と渡り合った実績を持つ。

氏名	所属	Pos	身長	特記事項
江口 稔平	星槎道都大学	SG	182	北海道の得点源、新人戦で平均22得点
菊地 峻平	仙台大学	SG	177	東北リーグ得点王・3P王、主将
芹川 颯太	八戸学院大学	SF	182	インカレで1試合36得点、スコアラー
小川 大新	青森CIGIUS NEXT	PG	175	元青森ワッツ練習生、社会人リーグ所属
崎濱 秀真	新潟経営大学	SF	180	-
中嶋 正亮	名古屋学院大学	PF	190	東海リーグ優勝貢献、優秀選手賞
中村 亮輝	天理大学	SG	182	関西1部MVP、高確率3Pシューター
白石 裕己	天理大学	PG	172	元大阪エヴェッサU15、アシスト能力
駒田 彬人	天理大学	PG	174	天理大主将、インカレで高確率3Pとゲームメイク
宮下 昂士	天理大学	SF	182	-
ジャンバルボ 海斗	近畿大学	C/PF	192	インカレ得点・リバウンドで圧倒的數字
金友 蓮	大阪産業大学	SF	192	大型ウィング、インカレでダブルダブル級の活躍
松浦 義斗	大阪産業大学	SG	170	関西3P王、シュート力に定評
古川 晟	大阪産業大学	SG	181	関西アシスト王、ゲームメイクもできるSG
福田 耀羽	大阪学院大学	SG	168	インカレで平均13.7得点、粘り強いDF
山下 力也	大阪学院大学	PG	177	攻撃的なPG、得点・アシスト両面で貢献
南口 早	大阪体育大学	PG	185	185cmの大型PG、2部から1部昇格の原動力
山田 大智	大阪体育大学	SF	185	3Pとドライブを兼ね備える
喜多 海斗	大阪経済大学	PG	180	冷静なメンタル、フィジカルDF
高橋 颯太郎	神戸市外国語大	SF	Unk	関西4部所属、主将経験あり
武富 颯太	東海大学九州	PG	176	九州1位、MVP・アシスト王獲得
上岡 玖龍	九州共立大学	PG	173	インカレで1試合32得点を記録

## 【関東大学リーグ（1部～3部）所属】

大学バスケの中心地・関東リーグで揉まれた実力者たち。

氏名	所属	Pos	身長	特記事項
岩下 凜平	筑波大学	PG	180	世代No.1ガード、高いリーダーシップと決定力
福田 隼人	筑波大学	F	194	194cmサウスポーン、3Pが得意なストレッチ4
石川 晋太郎	日本体育大学	SG	180	3Pスペシャリスト、B練習参加経験あり
月岡 照	日本体育大学	PG	174	広い視野とパスセンス、アシスト能力高
西部 秀馬	日本体育大学	SF	189	オールラウンダー、得点能力高い
早田 流星	日本体育大学	PF	185	フィジカルDFとリバウンドで貢献
佐古 竜誠	白鷲大学	PG	178	ハードワークとフィジカルなDFが武器
佐伯 雄介	白鷲大学	SG	185	泥臭いDFと高確率3P、優勝メンバー
塚本 智裕	大東文化大学	PG	179	元B特別指定、落ち着いたゲームメイク
田中 清高州	大東文化大学	PF	194	エースクラスのDF力、3&Dタイプ
廣岡 大翔	大東文化大学	SG	184	クイック3Pシューター
新井 泰人	日本大学	SF	190	190cmハンドラー、リーグ優秀選手賞
泉 登翔	日本大学	SG	190	サイズのあるシューター、熱いプレー
平岡 善太郎	日本大学	PG	174	堅実なゲームメイクと高確率3P
下地 秀一郎	日本大学	PG	174	スピードスター、シックスマン適正
岩屋 輝	早稲田大学	PG	183	リーグ優勝主将、安定感と勝負強さ
堀 陽輝	早稲田大学	F	188	チームの切り込み隊長、強いフィジカル
堀田 尚秀	早稲田大学	SG	184	爆発力のある左利きシューター
新井 翔太	青山学院大学	PG	172	圧倒的オフェンスセンス、高得点・高アシスト
オドゲレル トルガ	青山学院大	PG/SG	182	フィジカルなドライブとDF
島崎 輝	中央大学	PF	195	チーム得点王、内外こなす長身スコアラー
久岡 真太郎	中央大学	SG	181	高い身体能力、トリッキーなプレー
清水 夏葉	専修大学	SG	184	ドライブとシュートのバランスが良い
松野 遥弥	専修大学	SG	190	高い身体能力、ダンクもできるスラッシャー
高橋 裕心	専修大学	PG	175	ドライブからの展開が得意
片根 大空	専修大学	PG/SG	182	流れを変える得点力、ドライブ
山本 愛雄	神奈川大学	PG	163	スピードスター、静岡特別指定経験あり
今野 海輝	神奈川大学	PG	177	泥臭いプレーでチームを鼓舞
木村 祐誠	神奈川大学	F	188	圧倒的的身体能力、爆発力あるプレー
針間 大知	明治大学	SG	186	フィジカル強く、クラッチタイムに強い
野口 竜真	駒澤大学	SG	175	2部リーグで平均10.5得点

ボンゴ ジロン	国士舘大学	SF	193	1部昇格貢献、リバウンドと身体能力
宮本 龍世	国士舘大学	PG	176	入替戦で活躍、安定したシュート力
中村 謙斗	国士舘大学	PF	190	リバウンドと3Pで貢献
水品 拓也	国士舘大学	PG	172	-
福島 寿希也	国士舘大学	PG	170	元横浜BC U15、キャプテンシー
高木 涼	江戸川大学	SG	Unk	リーグ戦平均9.6得点
河野 圭佑	江戸川大学	SG	Unk	江戸川大キャプテン
君座 武志	東海大学	PF	188	重量級インサイド、体を張ったプレー
齋藤 裕太	関東学院大学	-	Unk	-
小林 亮太	杏林大学	-	Unk	3部リーグスティール王
伊藤 太陽	杏林大学	SG	176	得点力、対人ディフェンス
杉信 イフェアニ	法政大学	PG	178	洛南高出身、全国経験あり
勅使河原 広希	順天堂大学	-	Unk	2部リーグブロック王

## 【その他（海外・3x3・無所属・専門学校など）】

独自のキャリアパスを歩む選手たち。

氏名	所属	身長	特記事項
内山 晴輝	Shizuoka GYM RATS	184	18歳、多彩なスコアリングとメンタル
オヌ 太郎	IKEBUKURO DROPS.EXE	193	3x3プロ、全ポジション守れるDF力
西村 月芽	EDEN.EXE	Unk	18歳、元宇都宮U18、3x3プロ
安田 幸太郎	CHIGASAKI STARS.EXE	194	長身、3x3経験
田中 翼	FUZ HOKKAIDO.EXE	190	北海道出身、ドライブとシュート
鹿貫 惣雅	DIOREX TOKYO	172	3x3プロ、ドライブとミドルシュート
コックス 敬士	Belmont Abbey(NCAA2)	Unk	海外大出身、フィジカルなプレー
小強 智仁	Pratt CC (NJCAA)	183	18歳、米国短大、PG/SG
小強 智亨	Sunrise Christian	Unk	米国プレップスクール出身
岸田 虎之介	Pablo Laso Academy	Unk	スペイン留学、ジャンプ力とリバウンド
宮下 晃希	Justice University	SG	-
榎 裕貴	ヤマトライジング奈良	193	193cmウイング、モンゴル代表歴
中村 文哉	Bay Majesty	G/SF	状況判断の良いプレー
柏原 壮太郎	Lake Blue	180	冷静な判断力、PG/SG兼任
飯泉 陸斗	LEOVISTA KASHIWA	180	1対1の強さ、アシスト力
久高 将清	日本ウェルネススポーツ大	Unk	-
伊藤 勇 ジャスティン	(無所属)	193	高い身体能力、ダンク、柔軟性
安河内 ジャスティン	国際基督教大学	Unk	-
赤崎 琢真	(無所属)	169	ブルアップ3P、P&R展開力
大出 雅輝	(無所属)	182	強いメンタル、フィジカルDF
寺坂 優羽	(無所属)	Unk	元山梨学院大、ドラフト志望第1号
高橋 嘉翔	(無所属)	SG/PF	-
小山 凌一	(無所属)	Unk	最年長候補(21歳でのリスト入り時)
西村 慶太郎	(無所属)	PG	元中央大、川崎練習参加歴
藤井 遼大	(無所属)	175	SOMECHITY出場、スコアラー
仲田 愛輝	(無所属)	172	市立船橋高卒、WC出場経験
須藤 春	(無所属)	170	元琉球U18、「琉球の小さな巨人」
田村 昇大	(無所属)	168	-

# 5. 戦略的インサイト：データが語るBリーグの未来

## 5.1. 「サイズ×スキル」の相関とドラフト価値

データ分析の結果、「190cm以上で3Pシュートを打てる選手」（福田健人、田中流嘉州、金友蓮、島崎輝など）は、全体のわずか10%未満であることが判明した。Bプレミアにおいては外国籍選手のオンザコートルールが緩和される可能性があるが、それでも「帰化・アジア枠」や「日本人ビッグマン」の質がチームの天井を決定づける構造は変わらない。したがって、これらの選手はスタッツ以上の評価を受け、上位で指名される可能性が極めて高い。

## 5.2. 地方リーグの過小評価と機会

関東リーグ以外の選手（武富、菊地、中村光輝、南口など）は、対戦相手のレベル差を理由に過小評価されがちである。しかし、彼らのスタッツ（得点王、アシスト王、3P王など）は、彼らが卓越した特定のスキルを持っていることを示している。特に**武富楓太**（東海大九州）や**南口皐**（大阪体育大）のような選手は、B2以下のクラブや、育成力に自信のあるB1クラブにとって、ドラフト下位やフリー交渉での「スティール（掘り出し物）」となるだろう。

## 5.3. 「専門性」の時代へ

**石川響太郎**（3P専門）、**佐伯峻介**（守備専門）、**西村月冨**（3x3特有の1on1）のように、特定のスキルに特化した選手の需要が高まっている。ロスター枠が増加傾向にある中、全てのことを平均的にこなす選手よりも、ワンポイントで試合の流れを変えられるスペシャリストの価値が向上している。これはNBA化するBリーグの戦術トレンドを反映している。

# 6. 結論

Bリーグドラフト2026は、単なる新人獲得の場ではなく、「ガードの黄金世代」と「ウイングのサイズ革命」が交錯する歴史的な転換点となる。

指名順位がフラットな抽選で決まる以上、各クラブは「運」に左右されるが、その運を最大限に活かすのは事前のスカウティング能力である。岩下准平やジャンバルボ海斗のようなスター候補を確保できるか、あるいは金友蓮や新井楽人のような「サイズ×スキル」を持つ希少なウイングを確保できるかが、Bプレミア初期の勢力図を大きく塗り替えることになるだろう。

ファンにとっては、かつてないほど多様なバックグラウンドを持つ選手たちが集うこのドラフトは、日本バスケットボールの「深み」を知る絶好の機会である。名前の挙がった95名全員が、それぞれの物語と武器を持ってプロの門を叩こうとしている。1月のドラフト会議当日、彼らの名前がどのような順序で呼ばれるか、固唾を呑んで見守りたい。